

議会報告会を開催

テーマ 定例会報告 議員定数

当別町議会改革推進協議会は、今回で3回目となる議会報告会を西当別コミュニティーセンターとゆとろで開催しました。

1回目は町内会の方を、2回目は町内の諸団体の方を対象としました。今回は町内会と諸団体の方に集まっていただき、定例会の報告とあわせ議員定数について意見をお聞きました。

これまでの議員定数の意見

第2回議会報告会

- 議員定数は増やすべき。
- 人口も減っているので、現状維持が良い。議会は町民に対し、どんなことができたか積極的なアピールをしていくべき。
- 議員1名減で福祉などにお金が回るのだから減らせとの考えが多いと思う。
- 議員の数も地方交付税の算定の入っていることなど町民に理解してもらうことが大事。
- 適正な人数は議員1名あたり1,000名前後。

議会改革推進協議会

- 委員会構成などで大幅に減らすべきではなく、他の町村との兼ね合いもあり1～2名減が良い。
- 財政状況を鑑みて、1～3名減が良い。
- 人口減もあり、議会の果たす役目、議員に1人に与えられた役目として、減らすべきではない。
- 市などの議員1名あたりの住民数なども参考にしている。

西当別コミュニティーセンター
4月16日(水) 午後7時～ 参加人数 27人



議会からは定例会の報告、議員定数削減の方向についての説明



出席者から貴重な意見をいただきました

ご意見 (議員定数)

- 町政と住民とつなぐパイプ役として議員は減らすべきではない。
- 議員定数を15名にすることは賛同したい。
- 議員定数は今のままで良いと思う。当別町は東から西まで長いので、地域の議員に点在していただくのが一番良いと思う。
- 人口が一番多いときの議員26名を知っており、そこから見れば削減の努力をしてきたと思う。

ゆとろ（当別町総合保健福祉センター）

4月18日（金）午後7時～ 55人



報告会のような様子



活発な意見交換が行われました

ご意見 （議員定数）

○町民の意見を行政に反映させるためには、ある程度
の人員がいたほうが良いが、人口減の状況であれば2
名削減は妥当である。

○当別町では17名が限界で、これ以上減らすには疑問
がある。

○全国的に人口減の状況で、今後も減少が予想される
ため、議員の数は減らす必要がある。低い報酬だと職
務に困難が生じるので、報酬を減らすのではなく議員
を減らすのが妥当である。

○議論の質を落とさない、また議員の質を高めるため
に議員自ら2名減というのは良いことである。

○議員を15名にすることは妥当である。これから議員
は、地域に出て行くということで、ぜひ実行してもら
いたい。

（その他）

○雪橇のお酒を公式の場で乾杯に使うなどの制度化に
してもらいたい。

○議会中継を実施してほしい。

議員定数については、報告会でいただいた意見を参考に、再度議会改革推
進協議会で議論をします。結論は6月議会までに出す予定です。

議会のうごき（平成26年2月～4月）

H 26.2.5	産業厚生常任委員会	H 26.3.11	平成26年第1回定例会
H 26.2.13	議会改革推進協議会役員会 議会運営委員会	H 26.3.12	平成26年第1回定例会
H 26.2.18	総務文教常任委員会	H 26.3.13	平成26年度予算審査特別委員会
H 26.2.19	会派代表者会議	H 26.3.14	平成26年度予算審査特別委員会
H 26.2.26	会派代表者会議 議会運営委員会	H 26.3.18	平成26年度予算審査特別委員会 平成26年第1回定例会 議員協議会 議会広報特別委員会
H 26.3.4	議会運営委員会 議員協議会 平成26年第1回定例会	H 26.4.2	議会広報特別委員会
H 26.3.5	産業厚生常任委員会 総務文教常任委員会	H 26.4.11	議会広報特別委員会 議会運営委員会 議会改革推進協議会役員会
H 26.3.6	平成26年第1回定例会	H 26.4.16	議会広報特別委員会 議会報告会
H 26.3.7	産業厚生常任委員会	H 26.4.18	議会報告会
H 26.3.10	総務文教常任委員会	H 26.4.21	厚真町議会行政視察 議会広報特別委員会

定例会開催予定 次回の当別町議会定例会は6月10日から予定しています。

編集後記

かけがえのない1万5,884人もの尊い命を奪い去り、いまだに2,633人もの行方不明者がいます（平成26年3月10日時点）。

東日本大震災の発生から3年の歳月が経ちました。被災地では、インフラ復旧が進んではいるが、今なお27万人を超える人々が避難生活を引いられたままです。一日も早い復興の実現を望んでやみません。

町民の生命と財産を守るのが、行政、議員の最大の使命です。

新年度から、本町の活性化と町民の安全安心対策にかかせない情報発信になる、公式フェイスブックを町が開設します。

大地震の試練から得た貴重な教訓を胸中に刻み、災害に強い強靱な町づくりを町民の皆様と「共働」「共助」で取り組む対策を進めることが大事と考えます。

議会広報特別委員会

委員 石川 和 栄